

## スターフライト・発達支援センター（非営利特別支援施設）

レポート：豊川倫代

### ★概要

- ・施設見学
  - ・担当者より特別支援についてのお話
- \*本施設は要特別支援児に対し、ファミリーへのサポートを含め数々のプログラムを実施している。経度から重度まで様々な特別支援が必要とされている現実について伺う

### ★はじめに

オーナーご自身のお子さんを含め（脳性麻痺）、元々個人的な目的だったが他の障害の子のお母様の支援もして頂けないかと声があがりはじめる。どう子どもと向き合うべきか？寄付を受けることができ、理学療法をつけ行ったのがきっかけ。地域に根づいたところでサービスを政府と契約している。

### ★3つのコントラスト

- ①乳幼児発達支援…0～3歳親子。若い親が子どもとの絆を結ぶ。普段から訪問し、コミュニケーションをとり、親子のサポートをする。
- ②特別支援…障害児を抱えた全ての親子がコミュニティを通してサポートが広がるよう手助けをする。間に入ってプリスクールや施設とのサポートをする。

↓

アシスタントを派遣する

一緒に支援活動を行い、横のつながりを深める。

- ①→②は必要性に応じて移行する。
  - ③小学校に入るまでのお子さんを対象に一言語療法・作業療法・理学療法を行う。
- ①、②と合わせて③を利用する人もいる。



### ★財源の確保と使いかた

- ① 個人の費用負担額は、0円。政府から出る。
- ② どう使うかはこちらで全て賄っている。
- ③ 補助金の使い方は、指定があり80%は給料、10%は管理費、10%は運営費。
- ④ 他は、寄付で賄う。自閉症の為の支援年間22,000円の補助金の申請ができる。
- ⑤ どの団体を使いこの子にどのくらいかかるかを算出して、かかる補助金を政府に申請するか。団体が引き出すことができるし、個人でも受けることができる。  
しかし、運営する側は難しい。

### ★プログラムの選び方

- ① 親が自分で発達の度合いを決めて、必要なサポートを選ぶことができる。
- ② ここが苦手だと思うプログラムに参加する。
- ③ 職員やサポートする人を大切にする。

当たり前のことだが、アタックしなければ成り立たない。

### ★情報のシステム化

その子の情報が幼稚園・小学校から、民間施設が認定される機関が、誰がどこからアクセスしても個々の情報・内容がわかるようにシステム化している。システム使用料 80,000 円。

民間団体が統括しており、政府が管理している。

そのお子さんに関わる人たちが、情報を周知することができる。

集められたデータは、25 歳になるまで保管しておかなければならない。情報は、更新されていく。

### ★ここで大切にしていること

- ① 0～3 歳のサポートは、親が信頼の鍵となる。
- ② 難しいが、よく話を聞き何を求めているのか探していく。(自閉症)
- ③ 親御さんが、障害と思われぬようにケアをする。
- ④ いかに家に近い環境を作るか(作業療法) → 手先・知覚がどのような環境で行われているか。馴染んだ環境での姿、感情・接触を大切にし、社会に出るた

めに体験・経験をしていく。

- ⑤ いかに、普通の生活に含んでいくのが大切である。

### ★感想

- ① ～かもしれないと判断できない障害が増えている。日本では、支援が必要な子どもや障害を持っている子どもは、それにあつたそういう施設に行き、受けたければ個人で判定してそれに合った施設へ行く。
- ② 日本では偏見を持っている人が多いように感じ、障害を持った親に対してのサポートが求められているのではないか。
- ③ こちらでは、0～学校に入るまでの子どもを一貫して見ており親のカウンセリングや家庭での遊び方や、姿を見て支援の提案をしたりケアが手厚い。
- ④ データー管理をし、ひとり一人をみんなサポートし民間や政府のもとずっと繋がっていくことが素晴らしい。
- ⑤ 同じことをやってみたくも思っているが根底の部分でなかなか難しいのが現状である。
- ⑥ 国みんなに愛されている子どもを国みんなが支援している体制に驚くことばかりだった。

